

合金バイオリン もっと軽量に

新幹線の先頭車両の流線形を独自の打ち出し技術で加工する山下工業所（下松市東海岸通り）がマグネシウム合金のバイオリンを試作した。11月4～6日、東京の東京ビッグサイトである中小企業総合展に出展する。

材料のマグネシウム合金板は厚さ約1ミリ。ペテラン職人が、ハンマーでたたいて曲線を生み出したり、電気溶接したりして作った。素材が固くてもろい性質のため、完成まで約3カ月かかった。

同社は5月、新幹線と同じアルミ合金でバイオリンを作ったが、重さは約1キと木製の2倍だった。より軽い素材としてマグネシウム合金に着目した。日本マグネシウム

マグネシウム使い山下工業所(下松)

「新幹線製作の技術知って」

動画は中国新聞HPで



読者会員限定

マグネシウム合金製バイオリンを演奏する
三好さん



協会（東京）からは「世界的にも例がない」とお墨付きを得たという。

「木製に近い軽さで違和感なく演奏できた。音の響きも十分」と、演奏を依頼された周南市久米のバイオリニスト三好真樹子さん（29）。アルミ合金より音質も高まって

いるという。

山下竜登社長（46）は「楽器作りを通じ、若い世代に高い技術を知ってもらいたい。技術の継承にもつなげたい」と話し、マグネシウム合金製のチエロやビオラの試作にも挑む考えだ。

（宮原滋）